愛するという事　　エーリッヒ・フロム著

~第一章~　愛は技術か

愛に対する誤解

愛とは、運命的に実現する物である、と社会では広く考えられている。しかしこの考えは誤っている。このような考えには三つの前提がある。

|  |
| --- |
| 人にとって重要なのは、愛する事ではなく、愛される事 |
| 愛する事は簡単だが、愛するに相応しい人を見つける事が困難 |
| 恋に「落ちる」ことと、愛の中に「とどまる」事を混同。 |

* 第二の謝った前提が生じた理由は二つある。

|  |
| --- |
| ロマンチック・ラブが広がった為、愛した人と結婚する事を人が求めるようになった。 |
| 商品市場の発達 |

愛は技術である

愛する事は困難であり、失敗を経験する。然し愛する事を止める事はできない。そこで、生きる事が技術であるように、愛する事も技術であると知らなければならない。

〜第二章〜　愛の理論

1. 愛、それは人間の実存の問題

人間の孤独と無力感

人間は動物と異なり、本能を欠いた、不明確、不安定な世界に、いる。彼はこれにより、孤独を感じ、自然や社会に対する無力感を募らせる。この無力感を克服するために、彼は外界と繋がりを持たずにはいられない。

孤立感から逃れる方法———愛と実存

孤立感から逃れる方法は三通りあると、フロムは記しているが、実質的には四つであると解釈した。そしてどの答えを出すかは、ある人間が個人として、どの程度独立しているかによって異なる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 集団的興奮状態 | 集団への同調 | 創造的活動 | 愛 |

上の四つの方法の中で、唯一愛のみが、完全な一体化を成せる。なぜなら愛は、人間同士が、確固とした自己、個性(乃ち実存)を保った侭の結合を可能にするからである。

愛とは

愛は、実存を保ったまま、他者と結びつくことを可能にする。それでは愛とはどのようなものなのか。

|  |
| --- |
| 愛は何よりも与えることであり、もらうことではない(P43) |
| 愛とは、愛する者の生命と成長を積極的に気にかけること(P49) |
| 「秘密」を知る為の(略)方法が愛である。(P54) |

愛は、能動的な活動であり、それは「与えること」と表現できる。そして愛を持って与える物は、まさに自分自身、自分の生命である。自分の喜び、興味、理解、知識など、自分の中に息づく物のあらゆる表現を与えるのである。そして与えることで同時に、相手をも与える者にする。こうして互いの中に芽生えさせた物から得る喜びを分かち合う。